

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 1 回	療 育	部 会	参 加 者 数	29 人	会 場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	25 年 6 月 28 日 (金) 15:00 ~ 17:00						
主 題 マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 年間計画の確認 2 各市町村より療育の現状についての報告・意見交換 伊那市の相談体制について 箕輪町の療育支援事業について 各市町村の状況 3 発達障害サポートマネージャーの役割について 4 その他 							
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> 1 について <ul style="list-style-type: none"> ・最低、年4回程度の開催を予定している。 ・施設の見学や、学習会、講演会等、参加者の希望を取り入れながら、つなぎをベースに検討していく。 2 について <ul style="list-style-type: none"> ・18歳までの子どもに関する相談は、「子ども相談室」に窓口の一本化を図った。 ・相談窓口が分かりやすく、利用しやすくなり、情報もつながりやすくなった。また、総合的な支援が可能となり、早期発見・早期支援、さらには市民のニーズにも応えやすくなった。 ・今後、新体制の検証をしつつ、18歳以上の支援体制のあり方も検討していく必要性を感じている。 <p style="margin-left: 20px;">について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県が実施している「CLMチェックリストと個別支援計画」を導入した。 ・発達支援専門員や保育園への発達支援専門部の設置、スーパーバイザーの委託、親支援のための支援チームの充実やペアレントトレーナー養成の充実を図っていく予定。 <p style="margin-left: 20px;">について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村の療育の現状について、主に行政組織のあり方を中心に報告が行われた。 ・乳幼児健診から保育園レベルの支援体制は、どの市町村も充実している。 ・今後、特に中学・高校段階における情報共有、学校との連携など、さらなる充実が期待される。 3 について <ul style="list-style-type: none"> ・療育コーディネーターや保健師、発達障害支援員等、サポートチームの専門家の連携支援を行うことが主な業務で、上伊那圏域に1名配置されている。 ・教育と福祉の連携はもちろんだが、医療との間でも、さらなる連携推進を図っていきたい。 ・高校、さらには卒業後の就労支援まで円滑に行われるよう、県で作成した「情報共有ファイル」をぜひ活用していただきたい。「つながる」支援を充実させていきたいので、ご協力をお願いします。 4 について <ul style="list-style-type: none"> ・伊那保健福祉事務所より 7/20(土)12:30より、伊那合同庁舎501・502号会議室において、発達障害者の就労支援に関する講演会を開催予定。前半は講演会、後半は個別相談を予定している。興味のある方は、ご参加を。 ・箕輪町の取り組みを学んでいってはどうかとの提案があった。 							
ま と め	<p>部会長より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・療育は一生の支援が必要である。市町村における支援体制の確立と、具体的にどのような支援を行うかという、ハードとソフトの両面からの検討が重要になってくる。 ・現場の声が大切である。課題を出し合い、しくみを変え、動かしていけるよう、みなで考え、活動できるような部会にしていきたい。 							
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細については、後日お知らせする。 							

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 療育部会	参加者数	19人	会場	福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	25年9月13日(金) 15:00 ~ 16:45				
主 題 マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 宮田村より情報提供:「つながりある療育を目指して」 2 意見交換 3 その他 					
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> 1 について(宮田村教育委員会子ども室 子ども相談員より) <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会に子ども相談員が配置されており、村の保健福祉係と連携し、早い段階から保護者との関係作りを進めている。情報は母子健康台帳でつないでいる。 ・新生児訪問、ママの部屋、子育て相談を通して、早期発見に努めている。また、育児相談や定期健診で親や子どもの様子を知り、遊びの教室(すくすく広場)やつくし園通所を必要に応じて奨めたりもしている。 ・保育園入園後は、巡回相談を行っている。さらに年長児を対象としたSSTグループ(わくわく広場)には教育相談員も加わり、就学相談、就学支援委員会へつないでいる。 ・早期連携により、子どもの様子や保護者との関係作りがスムーズに行え、支援方法も関係者で共有できる。 ・小学校との連携のさらなる充実、客観的・専門的に複数の目で子どもをみていく大切さ、診断後、安易にレッテルを貼らないことも重要である。 ・遊びの教室利用者への年少児のフォロー体制や就学時判定をした児童に対するその後の見直し体制も今後検討していきたい。 2 について <ul style="list-style-type: none"> ・各保育園でフォローが必要なお子さんを巡回スタッフが療育につなげる併行通園を実施しているが、年少から年長児が集まるので、課題遊びのレベル設定が難しいと感じている。(南箕輪村) ・親が子どもの障害を受け入れられず、成長してから問題に気づくケースもあると思う。その時、遡って経過を見ることができればと思う。また、不安を抱える親に、療育を積み重ねることの成果をお伝えしてもらえと、抵抗感を軽減し、早期療育につながるのではと思う。(保護者) ・子ども課で、新生児から18歳まで一貫して見ていく体制になっている。5歳児健診で要観察とされた子どもの追跡調査を行っており、結果を生かせる方途を検討しているところ。健診結果を子どもカルテで小学校へつなぐことで、学級編成に生かした。(駒ヶ根市) ・飯田市をモデルに、町では保育園スタッフの全体的な底上げを図ろうとしている。(箕輪町) ・高校で問題行動を起こした生徒のケース会議が中学卒業と同時に途切れてしまうという事例があった。中・高連携の必要性を感じている。(箕輪進修高校) ・小学校や中学校段階の巡回相談も市町村で実施していただけるとありがたい。子どもカルテは中学卒業時に、親へ返してしまう。親が高校へ情報提供すればいいが、そこで切れてしまうこともあるのでは。(部会長) ・地域の家庭支援は、市町村がどう連携し、支援していくかが重要である。基本的には市町村がイニシアチブをとってもらう支援が重要だと考えている。計画相談についても言えることではないかと思う。学校ももっと市町村とつながっていくよう、学校側から市町村に働きかけていくことも重要ではないか。(部会長) 3 について <ul style="list-style-type: none"> ・県では情報共有ファイルを作成し、平成29年度までにすべての市町村での活用を目指している。各市町村独自でカルテ等、工夫されていると思うが、ぜひ参考にしていきたい。高校やその後の就労なども見越して書き加えていけるファイルである。情報がつながっていくよう活用を検討していただければと思う。(伊那保健福祉事務所) ・諏訪・木曾圏域でも「つなぎ」をベースに部会を開催している。2月の第4回は諏訪圏域の部会と合同開催も視野に入れつつ、目下検討中である。詳細については、未定である。(事務局) ・計画相談について、27年3月末までに、必要な方のサービス等利用計画を作成しなければならない。積極的に動いていく必要があるため、皆さんからも関係部署への働きかけをお願いしたい。(副部会長) 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・療育の現状について、就学前の子どもの支援や中高連携等、つなぎをベースに意見交換ができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・11月に飯田市の「こども発達センターひまわり」の視察研修を予定している。詳細は後日お知らせする。 					

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 3 回	療育	部会	参加者数	18 人	会場	飯田市こども発達センターひまわり
	日時	25 年 11 月 25 日 (月) 8:45	~	13:00				
主 題 マ	飯田市の療育活動の様子を知るため、視察研修を行う (10:00 ~ 12:00)							
主 な 意 見 な ど	<p>1. 全体説明 センターより ひまわりは、子どもの発達の遅れや偏りなどの早期発見や早期療育のニーズに応え、在宅障がい児や支援の必要な皆さんの地域における生活のトータル的な支援を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉型児童発達支援センター及び児童発達支援事業 ... 1~6歳までの受給者証のある児童、重心児 ・障がい児等相談支援事業(広域) ... 平成19年4月から南信州広域連合より委託を受けている ・障がい者(児)地域療育等支援事業(県事業) ... ~18歳、たまに18歳以上の方の相談もある ・特定相談支援事業 ・障害児相談支援事業 <p>2. 施設見学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別療育の様子(心理士、OTが対応し保護者に子どもとの接し方を伝えたりする) ・療育用おもちゃ(心理士などが個別のニーズに合わせて作成する) ・相談室などの設備 ・子どもの教室(過ごしやすい室内の工夫、視覚支援、動線を意識した室内の構造化) <p>3. 質問などへの回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別支援計画の作成の仕方 実際の様式を見せていただき、現在の形式に落ち着いた経緯などをお聞きした。 ・母子同伴から単独通園に移行するポイントについて ひまわりは基本的に単独通園。母子の日を月に何度か設けたり、母同士の学習会を設けている。 ...など 							
ま と め	実際に見学することで、事業内容や子どもの療育への取り組みがさらによく理解できた。各市町村や施設が適宜取り入れていけるとよい。							
次 回	後日、事務局より連絡する。							

25年度 自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 4 回 療 育 部会	参加者数	27 人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター 2F 大会議室
	日時	26 年 3 月 10 日 (月) 15:00 ~ 17:00				
主 テ ー マ	<p>1 連絡</p> <p>2 職員・療育実務者研修 「発達を知ることで子どもが見えてくる ～乳幼児健診における早期発見とフォローアップを中心に～」</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北澤発達障害サポートマネージャーより、毎年4月2日の世界自閉症啓発デー、4月2日～8日の発達障害啓発週間に合わせ、自閉症啓発メッセージボード巡回のお知らせと応援メッセージの記入依頼があった。 ・2014 ながの発達障害啓発週間「結(ゆい)」プロジェクトの概要、及び長野県発達障害者サポーター養成講座について、合わせて説明があった。 <p>2 について(講師:長野大学社会福祉学部 臨床発達心理士 高木潤野先生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診に関連して、就学前の子どもの見立ての方法について、丁寧に解説していただいた。 ・早期発見・早期支援の手法について、圏域の様子に合わせて細やかな視点からお話しいただき、学びを深めた。 ・高木先生の普段のアセスメントの様子について、実際の器具などを使いながら、分かりやすく説明していただいた。 ・子どもカルテのさらなる有効活用方法について、皆で考えた。 ・ICF全体シートについては、架空の事例を用いて記入方法の検討を行った。 検討した記入例を、県に逆提案してみたらどうかとの意見も出た。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して、発達を軸にした子どもの見方や関わり方、支援のあり方について考えるきっかけとなった。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、4回の部会を開催してきた。多くの皆様のご参加、ありがとうございました。 ・来年度も、引き続き積極的なご参加をお願いいたします。 					